

# GCI Global View

2010年3月1日

## 【目次】

● ASEAN 6 域内関税撤廃	P.1
● Global Markets	
1.オーバービュー	P.3

## 【連絡先】

株式会社 GCI アセット・マネジメント

○住所：〒101 - 0065 東京都千代田区西神田 3 - 8 - 1

○電話番号： 03 - 3556 - 5540(代表)

○電子メール： [administration@gci.jp](mailto:administration@gci.jp)

金融商品取引業者

関東財務局長(金商) 第 436 号

日本証券投資顧問業協会 加入

当資料は、株式会社 GCI アセット・マネジメントが情報提供を目的として作成したもので、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報データに基づき作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、当社が保証するものではありません。当資料における見解は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

## ●巻頭レポート

### ASEAN 6 域内関税撤廃

2010年1月1日より、ASEAN 6（タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ブルネイ）においては域内関税がほぼ撤廃されました。正確に言いますと、1月1日に7881品目の関税撤廃品目が追加された事で全体の99.11%にあたる5万4457品目で関税がゼロとなり、平均関税率が0.05%まで低下したということです。

カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（頭文字をとり“CLMV”とよばれています）といったASEANの新興加盟国においても今後段階的に域内関税が撤廃され2015年までの完全撤廃が予定されています。今年2010年というのは、上記のようにASEAN内における関税撤廃の動きが本格化してきた事に加え、ASEAN 6対インド及びオーストラリア、ニュージーランドとの間の自由貿易協定（FTA）の発効、更には対中国、対韓国との締結済みFTAに基づく夫々約9割及び約8割の品目の関税撤廃の実行が開始されたという事で、ある意味エポックメークな年といえるかもしれません。

年初の日本の新聞各紙はこうした動きを捉え、例えば日本経済新聞等では

#### 「アジア自由貿易圏へ弾み、32億人市場一体化進む」

とか題した威勢のいい記事を組んでいたようですが、例えばASEANにおける対中国輸入関税撤廃の実行にあたってはインドネシアやマレーシアの産業界からは早速不満の声が上がっておりまして、その実行延期や見直し等もありそうですので、まあ世の中そううまく事がすんなりと運ぶものではない、という位で見なければいいのではないのでしょうか。

勿論、ASEANという法人格を持った多国間共同体が対外的に締結する「お約束事」は法的には有効ではありますが、問題はASEAN内のその加盟国に対するASEANとしての強制力如何にあるかと思えます。ASEANとしての対外共同歩調の実効性というのは今後益々いろいろな局面で試されてくるでしょうから、ASEANの今後を占うに当たりいい検討材料になろうかと思えます。

### **ASEAN 経済共同体（AEC）**

さて、冒頭でお伝えしました今年からのASEAN 6での物品課税撤廃ですが、実はこれは、以前お伝えしました2015年創設目標の「ASEAN共同体」という大きなグランドデザインの中で示されている数多くの各種スケジュールの一部にすぎません。

「ASEAN共同体」は、

- ・ ASEAN「政治・安全保障（Political-Security）」共同体
- ・ ASEAN「経済（Economic）」共同体
- ・ ASEAN「社会・文化（Socio-Cultural）」共同体

の3つの柱からなるものですが、自由貿易市場については「経済共同体」達成の為のブループリント（07年11月のASEAN首脳会議で採択された「ASEAN経済共同体」達成の為の設計図・工程表の事です）内に明記されています。

このブループリントは、ASEANを

- ① 単一の市場と生産基地
- ② 競争力のある地域
- ③ 公平な経済発展
- ④ グローバルな経済への統合

にもっていく事を基本骨子にしています。

で、このブループリントが実行されるとどうなるのかと言いますと、物品の貿易では関税や非関税障壁が撤廃され、サービス貿易でも実質的に全ての制限が除去される。資格などの相互承認が行われサービス供給者の移動の自由が確保される。資本の移動に当たっても自由化され、資格も相互承認される。**資本市場の基準の調和や統合が行われる**。人の移動についても熟練労働者については移動の自由が確保される。更に共通政策として単一航空市場、単一海運市場、域内製品・サービスの互換性、あるいはASEAN共通のインフラ政策を実行する等々、実に多彩なものが示されています。

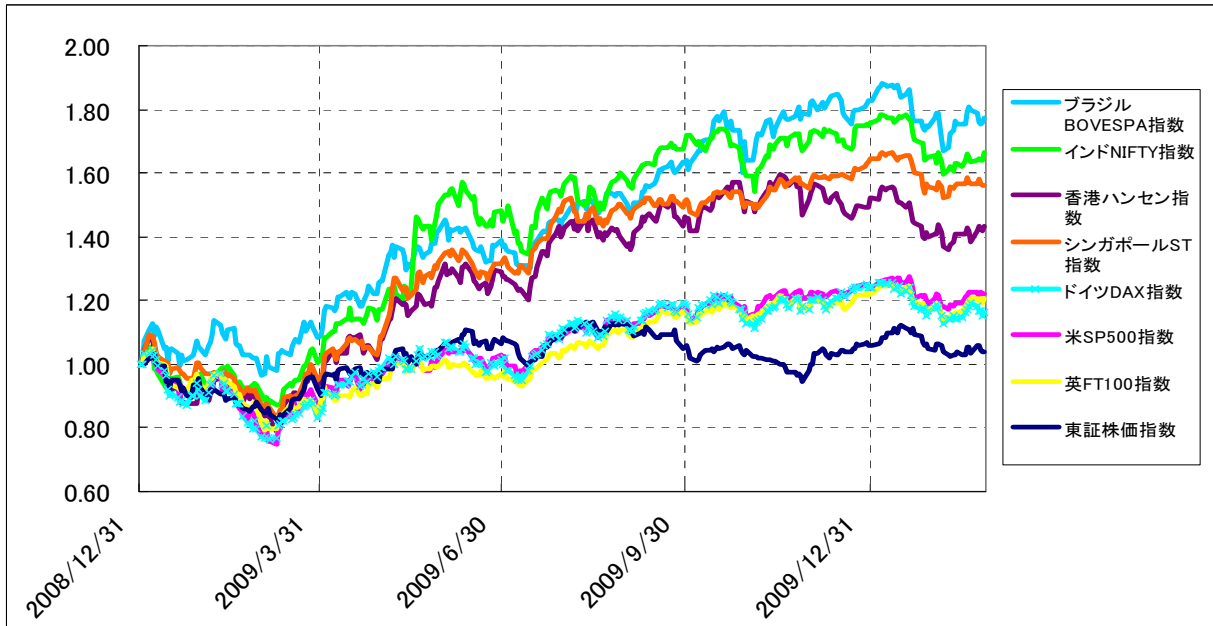
ASEAN6での関税撤廃はとりあえず実行され自由貿易地域（FTA）にはなったのですが、今後2015年に向けて、物品、サービス、投資、資本、労働者のより自由な移動が行われる地域に統合を深化させていく過程では、未だ紆余曲折はあるでしょう。今後が見ものです。（青木）

## Global Markets (2月22日～2月26日)

### 1. オーバービュー

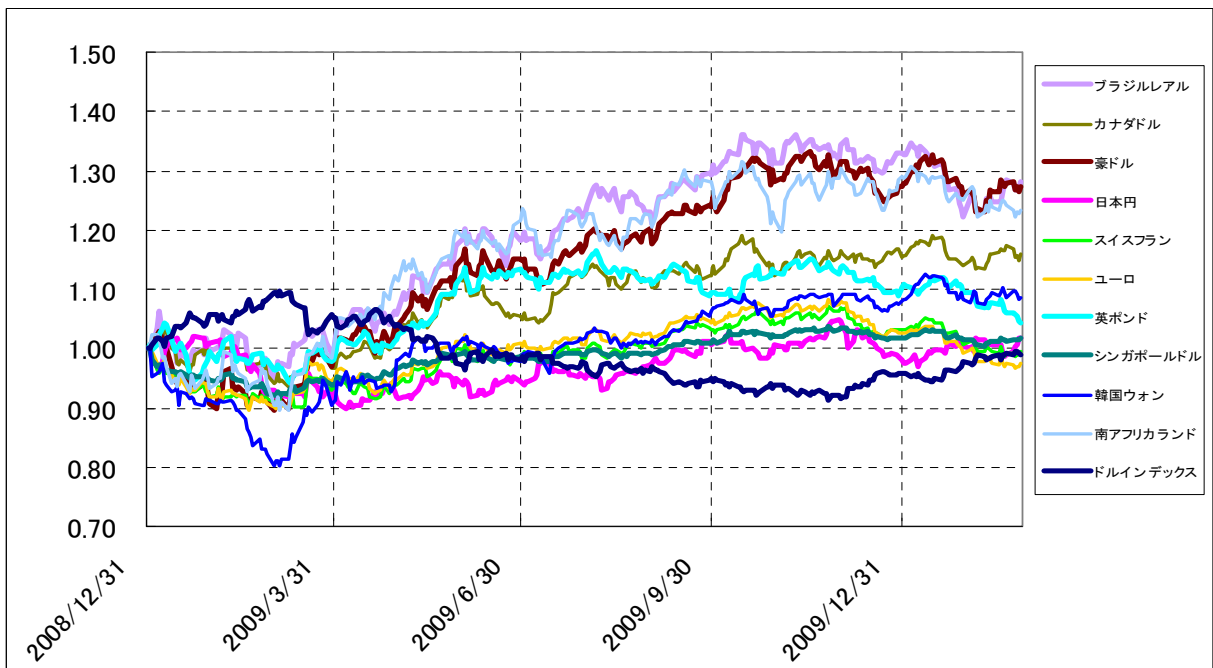
EUの動向をにらみながら、株式市場は概ねもみあいが続いた。春節後の中国市場は比較的底堅い動きに。

【各国株価インデックスの2008年末からの変化率の推移】

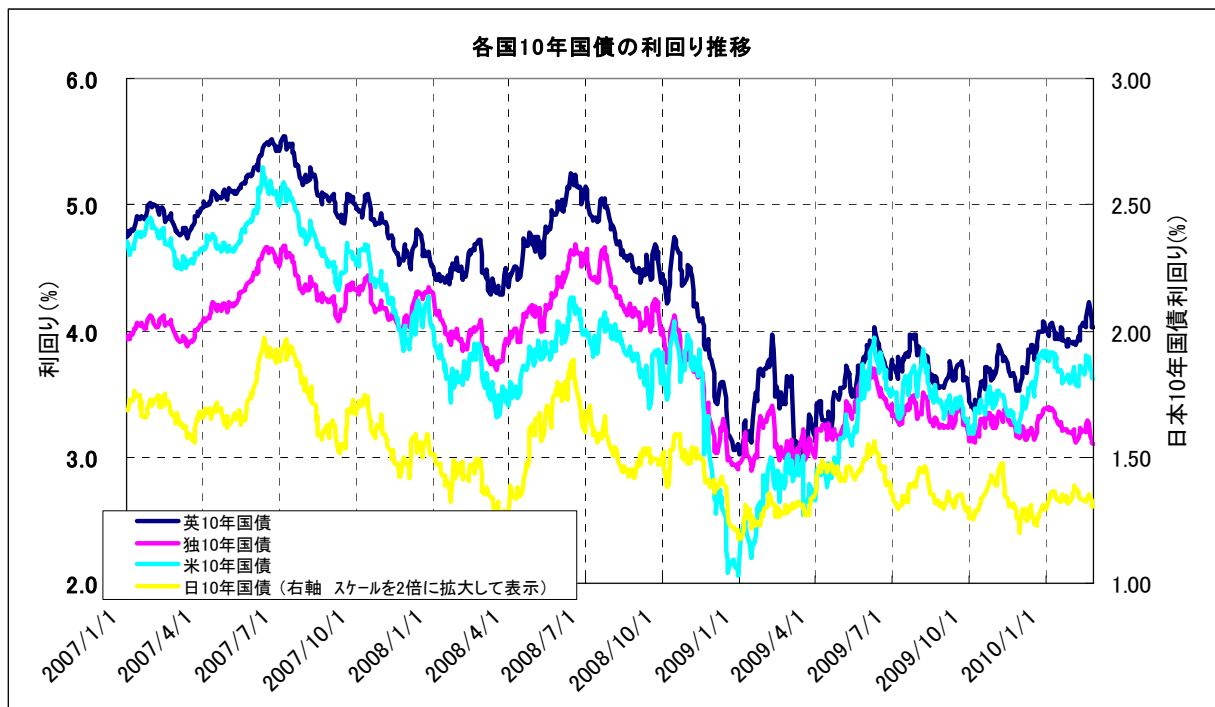


資源・新興国は横ばい、ユーロは下げ止まったものの、英ポンドは続落。ドル円は再び90円を割れるなど、まちまちな動きながら、リスクには敏感なセンチメントが継続。

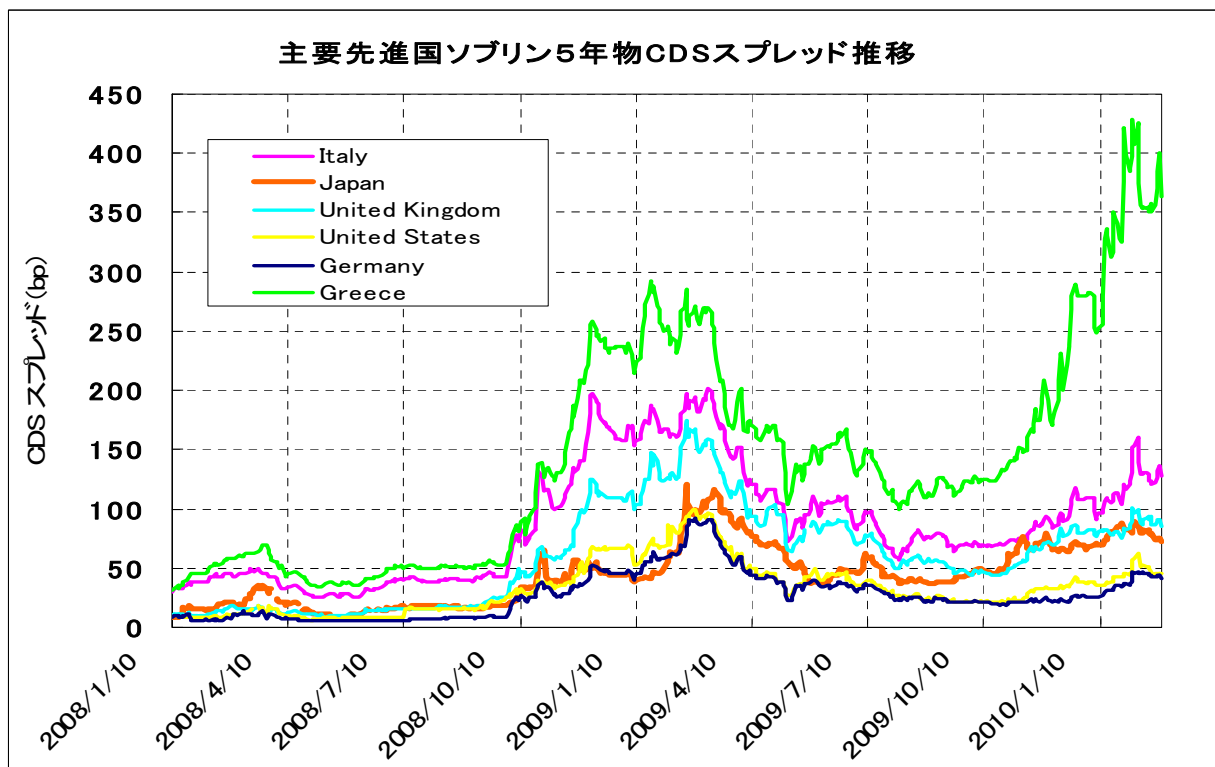
【各国通貨の2008年末からの対ドルでの変化率の推移】



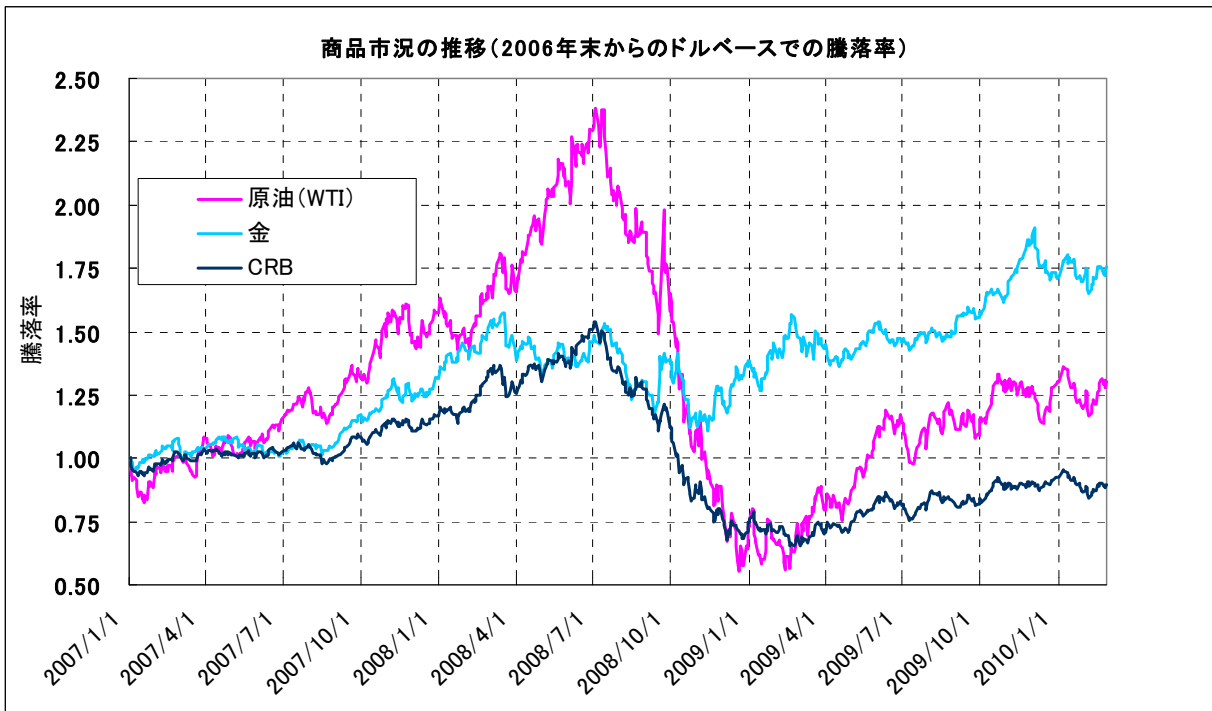
長期債は、ソブリンリスクを意識した財政リスクプレミアムの拡大と、リスク回避志向による債券への資金流入との綱引きとなっているが、米国の公定歩合引き上げで一時的に盛り上がった緩和政策の出口議論は沈静化し、短期セクターのリスクプレミアムは縮小した。



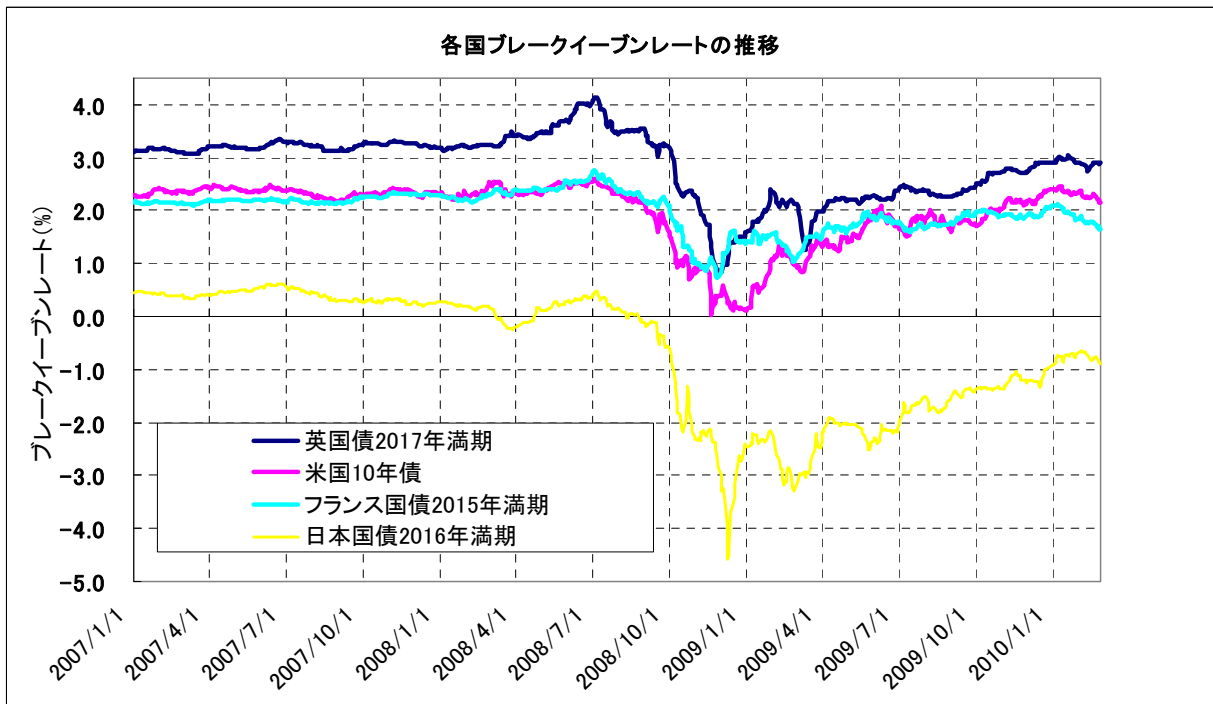
ギリシャのスプレッドは再び拡大。



商品市況はもみあい。



ブレイクイーブンレートは小動きながら、やや縮小方向に。



(末永)